

令和２年度 政策討論会 第二分科会(第３回) 要点記録

- ・日時 令和２年９月２３日
- ・場所 第２理事者控室
- ・会議時間 10:00～10:55
- ・出席者

雪本 清浩(座長)

友永 修(副座長)

田中 市子

堂本 啓祐

反甫 旭

河合 馨

米田 貴志

岡林 憲二

(座長、副座長以下は議席番号順)

・議事内容

1. 座長より、前回分の要点記録と個々の発言要旨を確認した上で、今回の討論議題である「岸和田市の現状把握と課題抽出」について、各議員に意見を求めた。
2. 各議員から、岸和田市の「現状」については、競輪場を利活用するための条件など整理が出来ていないのではないか、そのため地域との話し合いも進んでいない。他団体が使用していることを市民が知らない、それは周知がなされておらず、市のバックアップが無いからである。縦割り行政の弊害も影響している。ギャンブルのイメージが強く老若男女が楽しめる施設ではないなどが挙げられた。また、「課題」については、レースの無い日など空きの施設利用をどうすべきか、またBMXコースでは親子で賑やかに楽しんでいるが、そこにリンクした観光施設としての捉え方をどうするのかなどの意見が出された。そして、関連する団体から意見を聞いてみてはどうか、また Kishi-Biz にもアドバイスを伺ったらどうかとの意見があり、全員からの賛成が得られた。

※理事者の招聘

＜競輪場・ドゥールース＞ ＜スポーツ振興課・KIX 泉州ツーリズムビューロ＞

＜Kishi-Biz＞

全団体を同じ日に招聘するのではなく２回に分けてなどを考えているが、各団体の都合等調整のうえで決定とする。

3. 次回の討論会日程は、10 月 20 日(火)10 時～とし、理事者、関連団体との調整が取れたうえで、討論会に招聘し説明を受ける予定。

＜各議員の発言要旨＞

※順不同

●開催日(50 日)以外の空いている競輪場の使い方について、どのような利活用が可能なのか。また、何が出来るのかを調べ整理の上で討論会の議論を進めていくべきである。競輪場の内容(BMX 等他)の市民向けの PR を促進し、市民にもっと競輪場を知ってもらうことが重要。(単なるギャンブルの町等のイメージのみでない面について)競輪場内での新たな取り組みと、場を中心とした広域で何が出来るのかを考えることが良いと考える。また、岸ビズ等にプランなどを聞きながら、議論を進めまとめていくことも提案します。

●競輪場の開放は大事だと思います。現在の状況は、競輪をしに来ている人がほとんどで、これからは老若男女問わず子どもから大人までが楽しめるようにすべき。イメージ的には、関西サイクルスポーツセンターみたいに、変わり種自転車なども置いてみたらいいと思う。

●現状の把握と課題の抽出についてであります。前回の討論会で資料としてご配布させて頂きました「岸和田競輪場使用状況」をご覧頂きたい、平成28年度から令和元年度の間に、自転車を活用した競技やイベントが開催されています。そのことをまず把握して頂ければ幸いです。しかし、残念ながら、これらの事を、ここにいらっしゃる方々もご存じなかったかもしれません。ましてや市民の方々は知りようがない。それは市として PR ができていないことに起因していて、大きな課題である。開かれた競輪場を目指すならば、市を挙げてレース以外に行われている取り組みをしっかりと PR することが大切であると考え。さらに、掘り下げて申し上げる。まず、自転車競技やサイクリングなどの現状を知ることが大事ではないかと考える。例えば競輪場の現状や BMX を運営しているドゥールースさんの現状、本市のスポーツ振興課が取り組んでいる明年開催の WMG2021 関西の現状であったり、広域観光として泉州サイクルロードを確立させ、自転車ファンを取り込む観光資源の商品を手掛けようとしている KIX 泉州ツーリズムビューローさんの現状や考え方などをお聞かせ頂くことも、今後の議論のテーマにもなっていくと考える。そこで、その四者(競輪場・ドゥールース・スポーツ振興課・KIX 泉州ツーリズムビューロー)にお越しいただいて、現状を伺い、意見交換できればと考えるので、提案させて頂きたい。

●バンクはデリケートではないかと思われるので、どのような利用が可能なのか確認は必要と考える。泉州サイクリングロードの一つであり競輪場を通過する旧 26 号線は、サイクリングの利用者も多いが、自転車にとって危険な場所もあり、また、競輪場周辺の渋滞などの課題もある。Kishi-Biz からアドバイスを受けることも具体化を。

●岸和田競輪場をギャンブルの施設だとネガティブに考えるのではなく、前向きにどうすればポテンシャルを活かすことができるのか、議論したい。BMX などを見ていると、本当にこれから期待できる。また、理事者の招へいは賛成である。

●競輪場は、競輪事業としては年間 50 回弱しか使用されていない。市民にも開放して活用する方法を議論したい。また先には選手宿舎の建設もあるので、これも活用できない議論したい。関係理事者等を招へいする目的を確認したい。

●前回、テーマ提案者からご配布いただいた「岸和田競輪場使用状況」を拝見させていただき、大阪高等学校体育連盟自転車競技専門部や西日本学生自転車協議連盟などなどたくさんの自転車協議団体主催の大会で利用されていることを知った。しかし、私も含め岸和田市民のほとんどが知らないのが現状である。そのためか、競輪場と聞くとギャンブルのイメージが強い。ギャンブルとしての一面から逃れる事は出来ないが、公営競技としてあるのであり、新たなイメージを発信していくことが大事である。本市としてどのような周知活動を行い、また広域での展開を考えていかなければならないのかを議論していきたい。

●現状として、競輪場は暗い・閉鎖的・利用者が限られオープンスペースが無い・入口(競輪・BMX 共)の雰囲気が悪くなく、観光促進に活用できる健康で明るいイメージに欠けている。競輪場外部の整備では、正面入口の歩道橋が全体のイメージを暗くしている。また、駐車場のアスファルト舗装が全面に施工されていない為、砂利が多く危険で見栄えも悪い。学生の練習や競技に施設を貸していると聞くと、岸和田市独自のスポーツプログラムが無い。以上のように、施設整備や運営が競輪場単独の方針で進められている。外部の者(近隣住民や有識者)も参加させて、施設整備や運営を行うべきと考える。